

活発な梅雨前線による大雨が止んだ7月3日の午後。町田市にある町田山崎団地で、

「DANCHI Caravan in

町田山崎―防災まつり 2021 夏―」と題

したイベントが開かれた。テーマは「防災

Keep on!」。国内全域

において、いまや水害

や台風、地震などの自

然災害の発生が当たり前

となっている。このイ

ベントは、防災について、地域

に住む人、地域で活動する団体や企業

と共に考え、行動することで、改めて

地域の繋がりを強化しようと、UR都

市機構が主催したものだ。

新しくなった第2集会所では、UR

関連会社職員による防災プチ講座や町

田市の防災講習会、災害時に役立つス

マホ講座など、防災にまつわる催しを

開催。団地内の住民憩いの場、ぼんぼ

こ広場では、災害時に役立つテントの

展示のほか、プラカップを使った風鈴

作りやスーパードールすくい、団地商

店街による緑日なども出店し、子供た

ちも一緒に楽しく防災を学べる場とな



の点検をしておこうと思います」と話してくれた。

### 職員有志で繋ぐ活動

JR横浜線と小田急小田原線で、横浜、新宿駅までそれぞれ30分の町田駅からバスで約15分。町田山崎団地は、緑や公園の多い環境のなかに約4000戸を有するマンモス団地だ。

この団地で、防災をメインテーマとした地域参加型のイベントが始まったのは2014年。「もしも」のときを想定し、食べて、動いて、楽しく学べるようにと、町田市などの公的機関や民間企業・団体、教育機関とURが連携して開催してきた。

特徴的なのは、イベントの運営をUR職員有志で行っているということだ。ABCプロジェクトと名付けられたグループのリーダーを務める唐津亮太は、入社2年目。当日も、午後1時からのイベント開催に向けて、朝から関係者との調整などで会場を走り回っていた。「ABCプロジェクトは、若手職員を中心とした部署横断型の活動です。現在のメンバーは29人。先輩方が築いてきた経験や人脈を絶やさないよう、コロナ禍で最大限何ができるかを模索し

## 地域の繋がりを強め 防災を楽しく学ぶイベント

東京都町田市／町田山崎団地  
DANCHI Caravan in 町田山崎  
2014年●平成26年～

防災イベントの会場ではゼルビアのマスコットキャラクター「ゼルビー」くんも一役買う。



課の高橋宣行地域防災担当係長は、イベントの意義について語る。「災害時、市町村による『共助』が提供されるま

ではタイムラグがあります。そこで必要になるのが自分の命は自分で守る『自助』と、地域や近所づきあいによる『共助』です。町田山崎団地は規模が大きいだけに、こうしたイベントで防災意識の啓発を行い、地域の繋がりを作るのには非常に有意義ですな」

同課の澤田大さんも「普段の繋がりがあれば、防災だけでなく、高齢者の見守りにも繋がります。市としてコラボさせていただけるのはとてもありがたい」と言葉を継ぐ。

URの唐津は、大学時代に旅行先で偶然、北海道胆振東部地震に遭遇。その経験からコミュニティの大切さを実感したという。

「団地は、普段から階段室などで顔を合わせるなど、コミュニティの作りやすい場所。その強みを防災にも活かしていければと思います」

いざというときの  
ためにも、まずは身近なコミュニティから防災を見直すのも大切なことなのかもしれない。

### 団地の強みを防災に活かす

今年開催にこぎつきました。朝からの雨で心配しましたが、皆さん楽しんでくださったっているのがすごくうれいですね」と満面の笑顔で語る。

第2集会所のイベント「みんなで町トレ」を行っていたのは地元プロサッカーチームFC町田ゼルビアだ。町田市オリジナルの健康体操にトップ選手が映像で参加。参加者はチームのマスコット、ゼルビーとともに画像に合わせて楽しい体を動かしていた。FC町田ゼルビアマーケティング部の野村卓也地域振興課長は「ゼルビアは元々市内の少年少女サッカーチームからスタートした団体だけに、常に市民に必要な存在であることを大切にしています。今回は、コロナ禍で外出の機会の減った高齢者の方にも楽しんでいただき、チームのことを知っていただけるいい機会だと思いい、URさんのお声かけに喜んで参加しました。防災では常日頃からの繋がりが大事。こういう催しでコミュニケーションを意識するのは、とても有意義だと思います」と語る。「感染症流行時の防災」について防災講演会を行った町田市防災安全全部防

街に、ルネッサンス



一日も早い東北の復興へ 全力で取り組んでいます  
[企画制作]新潮社